

弱者を生まない社会への転換を

日 時

12月9日(火) 13:30~16:15

場 所

神奈川区民文化センター「かなつくホール」(JR東神奈川駅 1分)

参 加 費

無料 (オンラインライブ配信はありません) ※後日アーカイブをインターネットで公開

申 込 み

二次元フォームで受付 (裏面参照)

基調講演

「財政」の視点からささえあい頼りあえる社会へ

講師：井手 英策さん (慶応大学経済学部教授)

今、世の中は、心身の病気やケガ、失業、倒産、被災など運悪く「落とし穴」に落ちた人々を自己責任だと突き放し、恩着せがましく「最後のセーフティーネット」という生活保護等で「弱者を助ける」社会を、もうこれ以上悪くしなければ良し、とし始めてはいないでしょうか。このように「弱者を助ける」のではなく、そもそも「弱者を生まない社会」はどうしたら可能なのでしょう？

巨大テック企業がテクノロジーを駆使して世界中のユーザー (企業・自治体・NPO・協同組合も、生産者も消費者も市民も、老いも若きも) を自分たちの「領地」に囲い込む「テック封建制」の前に為す術が無く見える私たちの未来への不安、ポピュリズムが蔓延しつつある内外の政治への不信、責任も規律も欠く政府。この現実に向き合い、人間の尊厳と自由を守る民主主義の手段としての「財政」の視点から、「互助」と「再分配」と「ソーシャル・ワーク」をキーワードに、支え合い頼り合える社会への転換はどの様に進めたらいいのか、お話いただきます。



著書：『令和ファシズム論』『ベーシックサービス 「貯蓄ゼロでも不安ゼロ」の社会』等 多数

パネルディスカッション

地域の実践を基本とした「居場所と出番」のある希望の未来へ

コーディネーター

(公財) かながわ生き
活き市民基金 理事長

荻原妙子さん

パネラー

南医療生協 (愛知)
顧問

成瀬幸雄さん

パネラー

はたらつく・ざま 代表
NPO法人ワーカーズ・
コレクティブ協会
副理事長

岡田百合子さん



コメンテーター

井手英策さん

研究フォーラム2025 開催趣旨

超少子高齢社会が現実のものとなり、介護、医療、年金、生活保護等の社会保障制度は、軒並み抑制方向に向かい、格差の広がりや貧困が拡大しています。また非婚や高齢1人暮らしが増え、家族や支え合う関係は縮小しています。2040年には約40%が単身世帯になり、全体の35%超が高齢者になり、高齢者の7人に1人が認知症という状況になることが予測されています。そして孤独孤立が社会的に大きな課題となります。

そうした中、近年、政府は共生社会の実現を進める方針を出しています。しかし、「地域の課題はみんなで取組む」「お互い様で助け合う地域共生社会へ」というスタンスは、NPOや協同組合など非営利民間組織・団体が社会の様々な課題に取り組む実践や実績の中から生み出してきたノウハウと価値です。これでは、政府が地域の市民の共助を上から推奨するばかりで、政府自身の政策責任を放棄している、と言われても仕方がないのではないのでしょうか。

参院選挙の結果を見ると、「とりあえず手取りを増やして欲しい」という声に応える政党に票が集まりました。こうした背景には「リスクの個人化」が強まる一方、社会保障制度等への不信感や将来への不安の高まりがあります。非正規雇用でギリギリの生活しかできない、年金や生活保護費だけでは暮らせない、といった状況に追い込まれる人々が増え、常態化しています。

本来、政府は、税金や年金を原資にすることによって尊厳ある生活を保障するのが役目であり、政府は、リスクを個人や家族の自己責任だけに押し付けない社会、個々の痛みや辛さを地域や世代が横断的に共有し、「リスクの社会化」を実現するための仕組みです。そのためにはどのようにして持続可能な原資をつくり、何に、どの様に再配分するのか。今こそ、この財政のあり方を考えることが必要であると言えます。

また、今や医療福祉の世界は外国籍住民なくしてケアはなりたちません。しかしながら、とりわけ在宅介護ではケアを受ける側が外国籍のスタッフを受け入れたがらない風潮が根強くあります。そして、今、社会への不満を参政権のない外国人攻撃の形をとってぶつける差別や排外主義の煽動が公然と行われるようになりました。ここで思い出されるのは、世界恐慌そして昭和恐慌の中で人々が支持したのは社会的連帯ではなく外国人や少数派の排斥であり、それが先の戦争につながっていったことです。いわゆる中間層といわれてきた私たち市民は、外国人やマイノリティーの人たちと分断ではなく連帯し、「お互いさま」のたすけあい社会をつくるには何が大切なのか、今まさに自らに問う必要があると考えます。

本フォーラムでは、急速に少子高齢化する社会の孤立・孤独に対し、①持続可能な「公助」のあり方を考え、②お互いさまのたすけあいによる多様な「共助」の取組みを共有し、③意志ある市民が社会的マイノリティーの人たちと共に連帯して、各々の地域で関係づくりや活動を広げていくためのヒントを得ることをテーマにします。そして、これを「ひとりでも生きていける社会」「一人ひとりが生きがいや役割を持ち豊かさを実感できる社会」への第1歩とします。

申し込み方法

右記二次元コードより申込みフォームへアクセスして、必要項目を記入のうえ送信してください。

★アーカイブ（録画）は、開催後 参加型システム研究所HP等で配信します。

URL <http://www.systemken.org>



主催 「研究フォーラム2025」 実行委員会

実行委員会参加団体：（公社）神奈川県地方自治研究センター 中央労働金庫神奈川県本部 こくみん共済coop 神奈川推進本部 神奈川県漁業協同組合連合会 生活協同組合バルシステム神奈川 生活クラブ生活協同組合 福祉クラブ生活協同組合 NPO法人地球の木 （一社）市民連帯経済つながるかながわ （社福）いきいき福祉会 認定NPO法人WE21ジャパン オルタスクエア株式会社 NPO法人参加型システム研究所

協賛（依頼中）：神奈川県生活協同組合連合会 労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 JA神奈川県中央会 生活協同組合ユーコープ 神奈川県労働者福祉協議会 生活クラブ生活協同組合・東京 NPO法人まちばっと 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 NPO法人全員参加による地域未来創造機構

後援（申請中）：神奈川県 横浜市 川崎市

お問合せ

「研究フォーラム2025」実行委員会事務局 （特非）参加型システム研究所内
〒231-0006 横浜市中区南仲通4-39 石橋ビル4F TEL 045-222-8720